序章　首相には「影の参謀」がいた

ワレ首相軍事顧問ニナレリ　18

遅すぎた「再軍備が必要」への転換　25

第一章　葉隠精神と破天荒の時代

窮乏にもめげない「尚武の気風」　32

放蕩で独立守備隊へ飛ばされる　41

喧嘩に明け暮れた陸士のころ　36

「恩賜の軍刀」と御乳人の出会い　47

第二章　情報戦争の渦の中へ

英国で過ごした苦難の十年　54

羽織袴でカーネル・イシハラ登場　65

英国情報が「事変」を変えた　59

武藤元帥の死と危険な予兆　71

第三章　吉田茂との運命的な出会い

鼻眼鏡と風の男と喧嘩太郎がいた　78

「米国を敵にしない法」　89

辰巳発「微力、説得するを得ず」　84

「謝罪」でなく「遺憾」と言え　96

第四章　英米派の孤独な戦い

「英米派の孤軍」奮闘す　104
「変事の才」チャーチル立つ　121
ベルリンへの密使たち　109
英国民は「ロンドン抹殺」に耐えた　126
「西部戦線異状あり」　115
「ドイツ軍は勝てず」の衝撃　132

第五章　風雲急を告げる日米〝一触即発〟

「日本は本気でやる気か」　140
吉田茂、寺崎太郎の戦いと挫折　156
机上演習「日米もし戦わば」　145
断たれた絆―日本大使官邸に軟禁　162
対英米戦の賽は投げられた　150
手記にチャーチルへの畏敬記す　167

第六章　帝都防衛、学童疎開

東条に学童疎開を説得する　174
サイパンの赴任取り消される　184
学童四十万を救った男　179
終戦、死神が遠ざかる　190

第七章　敗戦―占領軍がやってきた

勝者が敗者に降伏した　198
「戦争で負けて外交で勝つ」　203
天皇制〝人質〟に憲法迫る　209
閣下モ偉クナレシモノ成リ　215
吉田は憲法を「条約」と考えた　220
首相の軍事顧問を拝命す　225
対ソ諜報網 極秘で立ち上げ　231
二度と米国に刃を向けさせるな　237

第八章　鉄のカーテンが降ろされた

冷戦の開幕―共産党を歓迎しない　244
極秘活動、二つの顔を持つ男　250
ニューディーラーを追い出せ　255
帝国陸軍〝復活〟のまぼろし　261
朝鮮戦争の勃発　267
「東条軍閥の復活」を阻止せよ　272
「君が制服組のトップになれ」　278
半島は〝日米同盟〟初戦場だった　284

第九章　吉田が目指した日本独立

元帥の誤算「中共軍の介入なし」　292
多数講和で米国を引きつけよ　298
「辰巳機関」が動き始める　303
影武者・辰巳に向かう圧力　310
吉田打倒クーデターのまぼろし　316

第十章　「歴史に消えた参謀」
総理大臣の「007」をつくれ　324
「中央情報局」構想の挫折　335
吉田の対中「逆浸透」作戦　330
老将は歴史に消え去るのみ　341
終章　吉田ドクトリンを超えて　350
辰巳栄一略歴　354
あとがき　355
参考文献　358